

授業科目	*在宅看護学演習					実務家教員担当科目	○				
単位	1.	履修	必修	開講年次	3~4	開講時期	後期・前期				
担当教員	石井 美紀代										
授業概要	在宅看護学演習は、「住まい」で療養している人とその家族に対して、訪問看護に必要な視点と方法を学ぶ。内容は、模擬事例での看護過程の展開、看護実践計画の作成、臨床推論を通して、在宅療養者と家族を対象とした訪問看護の展開を考える。また、療養者に起きている問題を個人の問題としてでなく社会問題と関連して捉え、解決に向けた方向性を探り、在宅ケアチームにおける看護の役割を考える。さらに、在宅看護の利点と欠点を捉えて、自分なりの看護観を持つ事を目指す。										
授業形態	講義・グループワーク			授業方法	対面講義・グループワーク						
学生が達成すべき行動目標											
標準的レベル	<ol style="list-style-type: none"> 在宅看護の看護過程における情報内容、アセスメントの視点、援助計画の特徴が理解できる。 生活ケアと医療ケアの視点で、看護計画を考えられる。 訪問看護で展開する「療養上の世話」について、基本的な技術の手順が描ける。 訪問看護での技術提供や指導に必要な視点について、病院の看護と比較して理解できる。 在宅看護の臨床推論から「判断する」ために必要な知識・技術を考えられる。 										
理想的レベル	標準的なレベルの知識、思考、関心、態度を修得した上で、これらを詳細に表現できる。										
評価方法・評価割合											
評価方法	評価割合（数値）					備考					
試験	60%										
小テスト											
レポート											
発表（口頭、プレゼンテーション）	10%										
レポート外の提出物	30%										
その他											
カリキュラムマップ（該当 DP）・ナンバリング											
DP1	-	DP2	○	DP3	○	DP4	○	DP5	○	ナンバリング	NU31403J
学習課題（予習・復習）										1回の学習目安（時間）	
授業内容の振り返り 授業中に完成できなかった作業の続きを行う										1	
授業計画											
第1回	テーマ：在宅看護における訪問の技術とは ・療養者を訪問する看護の意義（1章） ・コミュニケーション（2章）										
第2回	テーマ：訪問看護の記録（①-5章）										

	・訪問看護で使用する記録
第3回	<p>テーマ：在宅看護における看護過程の特徴（アセスメント）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報収集の難しさ ・在宅看護過程のアセスメントの特徴
第4回	<p>テーマ：在宅看護における看護過程の特徴（課題と目標設定）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・要望を踏まえた援助の方針/課題と優先順位 ・目標設定の視点
第5回	<p>テーマ：在宅看護における看護過程の特徴（包括計画/看護計画）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・包括計画の考え方 ・看護計画の特徴
第6回	<p>テーマ：生活の視点から看護を見る基礎知識（口頭試問）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あらかじめ提示した設問について、口頭試問を行う
第7回	<p>テーマ：在宅療養生活を支える援助技術</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手順書/指導案の意義
第8回	<p>テーマ：在宅療養生活を支える援助技術</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指導案の作成 ・教材の選択
第9回	<p>テーマ：訪問看護における教育・指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員のロールプレイから、療養者の教育・指導について考える
第10回	<p>テーマ：在宅看護における援助技術（食べる）3章</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食べる/噛むのアセスメント ・食べるを支援する技術 ・栄養障害（胃ろう管理を含む）
第11回	<p>テーマ：在宅看護における援助技術（排泄する）3章</p> <ul style="list-style-type: none"> ・排尿/排便のアセスメント ・排泄の援助技術 ・排泄障害（膀胱留置カテーテル/ストーマ管理を含む）
第12回	<p>テーマ：在宅看護における援助技術（清潔を保つ）3章</p> <ul style="list-style-type: none"> ・清潔行為に関するアセスメント ・清潔援助の種類/選び方 ・清潔援助を自宅で実施するための工夫
第13回	<p>テーマ：訪問看護における臨床推論</p> <ul style="list-style-type: none"> ・訪問時の「気づき」から療養者の状態を推論する
第14回	<p>テーマ：訪問看護における臨床推論</p> <ul style="list-style-type: none"> ・療養者の状態を推論に基づき観察する
第15回	<p>テーマ：訪問看護における臨床推論</p> <ul style="list-style-type: none"> ・推論から1つの方向性を判断する
テキスト	地域・在宅看護論② 地域療養を支える技術 第2版 メディカ出版

参考図書・教材 ／データベース・ 雑誌等の 紹介	授業内で、適宜、紹介します。
課題に対するフィードバックの方法	口頭試問は、終了後に講義の中で総評します。 提出ファイルは講義の中で総評し、後に返却します。
学生へのメッセージ・コメント	看護過程の展開・臨床推論等を通して、療養者が望む生活を実現させるためには看護だけでは限界があることに気づきます。地域療養を支えるシステムと、そこでの看護の役割を考え、後期の実習に繋げましょう。 ※授業の進行によっては、講義の順番を入れかえることがあります。